

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第 4 回議事メモ

分科会	第 1 分科会
コーディネーター	永由 裕大 伊藤 伸 (ZOOM 参加)
ナビゲーター	なし
説明担当者 (自治体)	農林振興課西山森林整備担当 秋山
日時	2021 年 7 月 25 日 (日) 14 時から 16 時 30 分
場所	産業文化会館 1 階 大会議室
その他	参加者数 <u>12 名</u> 欠席者数 <u>13 名</u>

総括

コーディネーター総括

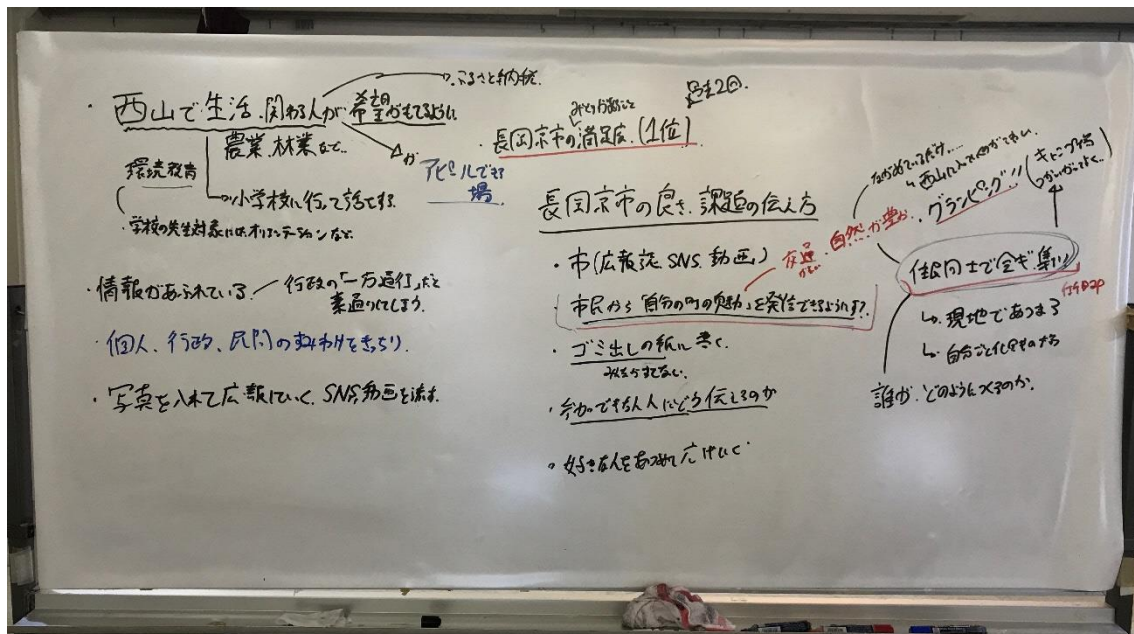
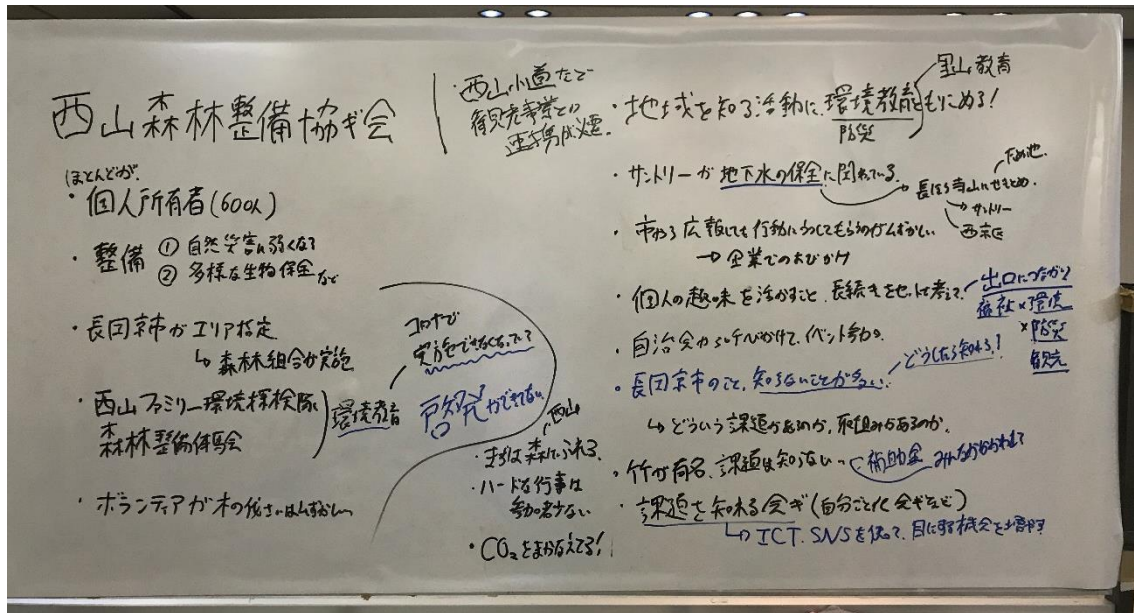
- 西山を中心に話をしたが、今日の話は西山とのかかわり方で人によって意見や視点が異なると感じた。
- そもそも西山のことなど、環境保全への市の取組みを知らない人が多くいた。一方通行の情報が溢れていることが課題。個人・地域・民間・行政のすみわけを考えることが重要。

主な論点

論点① 西山森林整備推進協議会の取り組みについて

論点② 西山と市民との関わりについて

ホワイトボードの写真



協議の流れ

① 西山森林整備推進協議会の取り組みについて

コ) 前回の振り返りもかねて、中間とりまとめの確認。これまで話してきたことは4つに分けられる。①自治会加入率の低下・維持について ②ごみステーションの維持管理について ③河川・水路の清掃参加について ④西山の手入れ・放置竹林の拡大について。今回は西山の手入れ・放置竹林の拡大について、まちづくりにどう反映させていくか、行政と市民の連携を考えて議論していきたい。それでは農林振興課の秋山さ

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

んから、西山森林整備推進協議会の取り組みについて説明していただく。

市) 市農林振興課が協議会の事務局をしている。協議会の説明と西山の整備の必要性について説明する。西山の面積は 800 ヘクタールで、市の総面積の約 4 割が西山。西山は所有者の 99 パーセントが個人。所有者は約 600 名。西山は杉・ひのきが有名で、1970 年の大阪万博で西山ひのきが日本館の内装にも使われた。昔は松茸が取れていて、地名にも残っている。山桃の実もとれ、昔は御所に献上していたという記録も残っている。薪炭林として活用されていたが、電力などの発達により木材が不要になり、放置されていくように。人が定期的に森に入って手入れをすることで日の光が入るようになり、多種多様な植物が育つようになる。手入れを怠ると森が暗くなり、大雨の時に貯水機能が低下して土砂災害の危険性も。細い木しか育たなくなり、病害虫に侵食されると一気にダメージを受ける。数年前にカシノナガキクイムシが流行し、かなりの被害を受けた。いろいろな生き物が住みやすい環境がいい森林であるが、放置すると住みにくい森林になってしまう。長岡京市では、所有者・市民・行政・企業が協力して森林整備を行っている。市として森林整備を進めるにあたり平成 17 年に西山森林整備推進協議会を立ち上げた。西山をどう整備するかについて「森林整備構想」を作成。これに基づいて整備を進めている。毎年整備をする候補地や整備の方法を協議会に諮ったうえで、整備している。西山ファミリー探検隊・森林整備ボランティア養成講座などの取り組みも行っている。実際に山に入ってもらって森林整備を体験してもらっている。環境教育の一環としてまき割り・まきストーブ体験なども実施。整備の方向性などを知ってもらうために活動している。

コ) 市民との関わりは？

市) 市民が関わる場所は西山ファミリー探検隊や森林整備体験。協議会にはボランティア団体にも参加してもらっている。

コ) 市民や市民団体にもっと関わってほしいなどの課題はあるか。

市) 去年からコロナの関係でイベントの開催が難しく、実施ができてない。代替案として幅広く知ってもらうような取り組みを考えていかなければいけない。今年はイベントを再開しているが、もっと知ってもらう工夫をしなければと感じている。

コ) 協議会の活動を知っているという人は？(5～6 人くらい)

委) NPO の方とかそれぞれがいろいろな人を巻き込んで活動している。生活と山が繋がっていたという話が前回あったが、大きな災害が起きたときに地域の中に知っている人がいるというのは心強いことだと思う。地域の人を知るきっかけとして使ってもよいかもしれない。

委) 水田・竹林・山を持っている。すべて整備していて、現場にいる人間と自負している。環境保全に関して、温室効果ガスの排出減らす取り組みがなされている。子子孫孫にわたって大切な問題だと思っている。西山の地下水を守るために、サントリーが西山の森林整備をされている。小学生のときは松茸山で松茸をとったことがある。急に取れなくなった原因は LP ガス。それまでは松葉に着火してたき火を燃やしていた。松葉

を燃やすことで松茸が成長する。燃料が変わってしまったことで、松茸も取れないし環境破壊にもつながる。地下水の話について、長法寺山がある。西山の水は長法寺山でせき止められており、馬の池に水が流れていくルートと、京都市の西京区・大原野に流れていくルートがある。昔は水の取り合いで死者も出た。森林とともに水も大事なこと。

委) あるマンションのそばで農作業をしていたら、上の階から女性が子どもに勉強しなかったらあんななるよって言う声が聞こえた。農業への蔑視。農業をやらない人間が地元で増えている。地元若者がいない。いても農業だけでは食べていけないという現実がある。農業をやっているかたはどういう意見かわからないが、農地を保全している人に手当てが必要。

PT) 広報の仕事をしているが、市で活動していることや参加してほしいという気持ちがあっても、市民の方の気持ちを動かすことは難しいと感じている。たとえば、身近なところから繋げる。SNS で発信するとか勤め先・団体と行政が連携するなど、パイプになるようなものが必要だと感じる。

委) 自分の趣味で竹林に入る方もいるが、家庭の事情などでできなくなったという人が多い。支えがなくなると破たんして生きがいにならなくなる。趣味を生かして地域に役立っているという存在感をプラスしていく必要がある。地域との繋がりをつくらないと、面的な広がりにならない。

コ) 中間とりまとめで、環境整備をしたあとにBBQできればいいよねという意見があった。整備することで楽しいことが作れるという出口。西山はそういった出口が見えないかもしれない。西山を整備することでどういうメリットがあるか。

委) 西山の課題がパンフレットに書いてあるが、この課題を市民が解決するのは難しい。市で進めていくことだと思う。森林整備体験などのイベントへの参加であれば、自治会とかで何人か集めて参加しませんかと聞いてみてもよいかも。何をやってもマンネリになっているので、こういうイベントがあってこういうことをするというのをおろしてくれたら行ってみようかと思う。

コ) 実際はどういった周知をしているか。

市) 探検隊やボランティアは広報などで広く一般に募っている。地域に特化したような活動はできていない。竹を切るとなるとかなりの大きさで長さも長いので、小学生が手伝えるかという点で難しい。活動を見学してもらい、来てもらって現状を知ってもらうことで興味を持ってもらうことが入口になると思う。広報などで広く募集しているのが現状。サントリーさんから以前は寄付をもらっていたが、今は一緒に森林整備をしてもらっている。他の企業も企業活動として森林整備をもらっている。森林を竹林が侵食していることについては、市としても問題としてとらえ、竹林が拡大しているエリアの竹を全摘整備している。

コ) 山奥になると市民個人が関わるのは難しい。土地の所有者が管理するのが原則だが、市にお願いしているところもあり、どうしたらよいかというところ。

- 委) 長岡京市に住んでいても知らないことがたくさんある。どこでどうやって知れるのかが分からない。子どもたちが学校でもらってくる資料の中に西山ファミリー探検隊のチラシがあるので知ることができるが、周知としてはまだ薄いと思う。目に触れることが少ない。市役所に行かなければ知ることができない情報であれば、大多数の人が知らないと思う。どうやって発信していくか。西山の課題をどう解決するかについて、自分たちができることを考えるとなかなか大変だなと思う。重機が必要だったりするので、課題を解決するには企業や行政がやらないと難しいという印象で、個人が関わるといことが具体的にイメージできない。
- コ) 自治会の話とつながる。自治会活動をしているけど知ってもらえてないという課題。西山も一緒だと思う。どのように知ってもらうか。新しい仕掛けが必要ではないか。
- 委) ずっと長岡京市に住んでいるが竹で有名というイメージしかなく、課題があることを知らなかった。たとえば、京都府の補助金で地域課題解決を対象にしたものがある。木津川市は放置竹林を住民でできるところを整備したり、竹で副産品をつくったりしている。竹バームクーヘンづくりを子どもたちとしたり、ピザ釜でピザをつくったり、楽しく課題解決できる工夫があればいいと思う。
- 委) 時代もあって難しい。集団より個人が大事な時代。集まって森林のことを議論するなどの機会が乏しい。西山の課題は自分も今回初めて知り、貴重な機会。みんながこういう会議に参加するわけではないので、情報が得にくい。昔なくて今あるものはインターネットの発達。情報はいつでも取れる。森林など問題になっていることを現代の技術である ICT・SNS を使って目に触れる機会を作ればいいと思う。自然環境に関心がある人は一定数いると思う。そういう人の目に触れる機会を多くする。市役所は気楽にいくところでもないので、それ以外で掲示板や SNS で情報発信できる機会を増やすとよいのではないか。
- コ) 環境問題に関心のある人は少なからずいて、そういう人との接点を増やすのは大切というお話だった。いろんなところでチャンネルは作れる。
- 委) まずは森に行くことがいいのではないか。長岡京市で生まれ育って、小学生のときは、西山は遊び場のひとつだった。自治会でも地区のハイキングで天王山に登ったりした。最近はハードな行事は参加者が少ない。スタンプラリーみたいにお年寄りから子どもまで楽に参加できるものでないと参加者が集まらない。まずは森に触れる部分から。いきなりボランティアとか言われても難しいと思う。西山ファミリー探検隊は知らなかったが、そういう活動を知ってもらい、そこから興味を持った人を見つけていくとよいのでは。西山の課題は軽い気持ちで手伝いにいこうというレベルの問題ではないと感じる。
- 委) いろんな取組の中で、評価できるのは京都府が光明寺の裏あたりに砂防ダムを作ったこと。もうひとつ、京都新聞に 3 つのお寺を歩いて回るという記事が出ていた。善峰寺から柳谷観音、乙訓寺をまわるという取組。整備が進んでいないところもあるが、京都市を一望できるところもある。柳谷観音は花手水発祥の地で、全国に広がってい

ると TV でやっていた。何とか子どもたちも興味を持つように、森林の中に入って遊べることも大事。竹林も光合成をしているので、そういう意味で考えれば広がることを嘆くばかりでなく、そういう効果があるのではないか。そういう発想で元気になりたいなと思っている。

委) 長岡京市に住んで 40 年。西山古道が整備され、柳谷から光明寺に抜ける道を歩いた。自然環境を観察できたりして、子どもも喜んでいて。西山古道を整備したことで人通りが多くなったと感じる。長岡京市には歴史的なものが残っているので、そういったことを整理して、観光事業と食・健康に関するものを結び付ければ。西山だけでなく、災害時に河川・水路がどの程度整備されているのか。どの程度水が増えてくるのか、河川をどのように整備されているかもっと身近なところで情報発信してほしい。自然災害、観光、食関係、名物などを組み合わせた形でやっていけば、西山関係の環境保全はみんなが関心をもって解決していけるのではないか。

※ 西山古道整備は市では実施しておらず、市民団体が整備

～ 休憩 ～

② 西山と市民との関わりについて

委) 環境教育ということで、小学校の方に話をしてみたが実現不可能と言われたことになった。もうひとつは、西山の環境をどうするかという話だが、西山で生活している人もいて、それが抜けている。生活している人が的確に環境保全策をつかんでいるのではないか。長岡京市は京都市内や大阪に交通の便がよく、みんな市外に働きに行く。こういうところで環境保全ということは難しいが、現実に関わっている人がいる。その人たちがどう生活していくかということを考えないと、本当の意味での環境保全に繋がっていかないと思う。何をすればよいかは関わってないのでわからないが、農業や林業で若者が希望を持てるようなやり方があるのではないか。日本の社会のように、経済成長すればみんな豊かになれるというなかで、環境について実際はどうでもいいと思う人の方が多いのではないか。林業でも農業でも誇りを持てるようなかたちになればよいと思う。昔は木を少し切り払ってもえらいことになった。どこにどんな木が生えているかをみんな分かっていた。今はそういうことに関心がない。環境教育どうするか、一から考え直さないといけない。木を切っている人が学校で話をすればよいと思う。ヨーロッパは、パン屋と教師の賃金に格差がなく、生活にもあまり格差がない。親の仕事を継ぐ人が多い。日本の教育はアメリカ教育が入って、人を評価する基準が入った。横を見て競争するような。

PT) 環境教育について、教育現場で全く行っていないわけではなく、毎年春に新任や他市町村教員を対象に西山でオリエンテーションをしている。授業で西山を活用してもらるように。竹林整備ボランティアをされている地域の方を講師にまねている。遠足で西山フィールドに選んだ学校も数校ある。神足小学校では里山学習で森林ボランテ

ィアを講師に招いて、薪割り体験や西山の間伐材で薪ストーブを活用している。西山ファミリー探検隊では竹を使ったバームクーヘン作り体験を行っている。またふるさと納税のお金で森林整備を行っており、直接森林整備をするのは腰が重いという方でも、財源で参画できるという形をとっている。今までの議論をお聞きしていると、西山の課題を知らない方もおられた。現代は情報があふれているので、目にしたことがないわけではなく、自分にとって必要な情報を取捨選択しているのではないか。行政からの一方通行の啓発活動では素通りしてしまう。前回ご紹介した「市民どうしの啓発」。行政からだと思えることでも井戸端会議なら身近に感じられる。西山に問題意識を持っている市民が勉強会をすれば、行政が言うより心に響きやすいと思う。市民同士の啓発が活発化するように市がサポートできればと思う。

コ) 行政として、西山のブランドイメージをどういう風に思っているか。

PT) 昨年 9 月に環境基本計画改定にあたって市民にアンケートを取った。西山をはじめ、身近に緑があることの満足度が、交通の便の満足度などを抜いて 1 位だった。以前に行ったアンケートでも 1 位だった。2 千人対象で半数の約 1 千人が回答。市民は西山を誇りに思っており、身近に緑があることを満足に感じているのだと思う。

コ) 皆さんは西山にどういうイメージを持っているか。

委) 長岡京市に住んで 30 年くらい。職場は京都市で、長岡京市内で生活する時間が短く、西山にあまり行ったことがない。西山キャンプ場と西山体育館があり、自然豊かなところというイメージ。今までの話を聞いていて、大きな問題は所有者が個人であるということだと感じた。保全活動をするにしても、個人保有のなかでどこまでできるかというのが課題かなと感じた。課題はかなり広範囲にわたる内容だと思う。個人として関われる部分、団体として関われる部分、行政として関われる部分、簡単にできる部分、専門性がある部分というすみわけが必要。すぐに解決できるものではないので、長期的なビジョンを持って協議をしていく必要があると感じた。地元の新聞社に勤めているが、絶滅危惧種が発見されたとか蛍がみられるようになったとか、地元のニュースを細かくとりあげている。西山ファミリー探検隊などの PR について、文字だけではなく視覚的なものを広報資料として使うのもひとつの手。SNS で西山の状態を動画発信することで危機感を持ってもらえるのではないかな。

PT) 市の広報紙をつくるときは、それぞれの担当課から掲載依頼があり、広報発信課でとりまとめて記事を作成している。当事者からは広報紙に掲載されると反響があつてうれしいとの声をいただく。その一方、紙媒体なのでどれくらいの人が広報紙に目を通しているのかが気になっている。市ではチラシや広報紙、HP、SNS で情報発信しているが、どれくらいの人が素通りせずに見てくれているのか気になる。記事を見てどれくらいの人が動いてくれるのか。広報紙を読まない人や素通りする人に対してどうアプローチすればよいか課題。

委) 小泉川の 1 万分の 1 の地図を仲間と作ろうとしたが、途中で面倒になりやめてしまった。竹炭を焼いて水質を浄化する取り組みもしてみたが、同じようにやめてしまった。

思い付きやアイデアだけで動いているからだと思う。市外に観光をPRしているが、市民からの魅力の発信がない限り観光は根付かない。自分たちのまちを知るプロジェクトみたいなのであればいいと思う。面白いアイデアがあれば仲間に知らせて行動することができる仕組みがあれば、おもしろいまちづくりができるのではないか。

コ) 長岡京市の魅力は何かと聞かれたらなんと答えるか。

委) 自然が身近にあって、交通の便がよく、生活がしやすいこと。自然の部分をアピールしていけばいいと思う。

委) 自然は眺めているだけというのがほとんどだと思う。実際に西山に入っていく機会はなかなかない。実際触れ合っているかというところではない。子どもがいるので虫取りにいかうとするが、結構怖く、入っていいのか分からない。身近に触れ合える状況があるのか分からない。市としてアピールしているようだが身近に感じることができない。グランピングやキャンプをまちぐるみでやっているところがある。検索すると情報がたくさん出てくる。紙媒体では、ごみ減量のしおりなどは残しておくと思うので、そういうところに西山の課題を書いておけば、目に触れる機会が増えるのではないか。せっかく自然が豊かなのに入っていけない。

委) 交通の便がよく、自然が豊かというのが一番の魅力だと思う。小学生を対象とした環境教育がされていることは知らなかったが、身近に環境に触れられる機会があることは魅力。自然が豊かというイメージがあるが、深いところに市民が入っていけないのが課題ではないかと思った。家が農家でたけのこを育てており身近に感じるが、そういったことがないと自然に触れる機会もないと思うので、住民同士で自然に関わる機会を増やす工夫ができれば。

委) 西山キャンプ場があるが、グランピングするには程遠い。環境を守ることから外れるかもしれないが、西山キャンプ場の使い勝手を良くし、自然に触れ合う拠点にできれば。

コ) 整備する主体はどこがよいか。

委) 理想は行政。こういう場で市民が意見を出し合って、こういうことができないかと話し合いをして、実際に協力できることを市民がやるというように役割分担ができれば。

委) 今回は自分ごと化会議を市が主催されているが、似たようなシステムで西山を取り上げて参加者を募り、気楽に参加して色々と意見を出し合える機会が自分ごと化会議以外にもあれば、関心のある人が集まってくれるのではないか。

コ) すでに西山森林整備推進協議会にいろいろな企業や大学の人が集まって審議しているが、市民が参加できる機会はあるか。

市) 協議会自体に参加していただくのは難しいが、協議会の様子はホームページで報告している。皆さんに知っていただけるようにホームページのリニューアルや、パンフレットにInstagramのQRコードをのせている。茨木の高校生に竹林整備を手伝っていただき、体育祭でそのときの竹を使ってくださった様子や、西山ファミリー探検隊の様子、伐採した竹をチップにする様子などをInstagramであげている。もう

少し皆さんの目に触れるかたちで発信できれば。

- 委) 市民全員が共通の課題意識を持てるのが理想。地域のこととして話し合える仕組みをどう作るか。
- 委) FM おとくにで西山の活動を紹介しており、よく聞いている。地元の行事や大山崎、向日市あたりの情報も得られる。FM おとくにを活用して、イベントの周知や課題、アイデアを募集や、代表者のアピールなどができれば。西山古道は魅力があるので、お年寄りも子どももそろって散策でできればいい思い出づくりができる。きっかけを動機づけするのがよい。
- 委) 関心のない人は西山のイメージは持っていない。関心が高い方を集めて活動を行った方がよいと思う。
- コ) 改善提案シートの記入をお願いする。4つの課題があるが、市民が知るためにはどうしたらよいか、また実際行動するためにはどうしたらよいか。そのために行政は何をしたらよいかを書いていただけたら。次回はラストの会議。共通項として、市民からの発信と、会議の場づくりが必要という意見があった。行政と市民の連携についてのご意見を、他班の分も併せてまとめていく。
- コ) 西山を中心に話をしたが、今日の話は西山とのかかわり方で人によって意見や視点が異なると感じた。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- 次回、提案書としてまとめたものについて、ご意見をいただく。